

1 日目

◆ようこそ焼津へ 13:00~13:30  
全国集会レンジャーによる寸劇・歌・スライドで子どもと平和、ゆかいな静岡青少年少女センターの歩みを紹介。

◆基調報告 13:30~14:15  
「ほんものの笑顔がここにある」  
各地の子どもたち、青年たちの活動から子どもの権利をゆたかにする地域活動を見通していきます。

激突!

4:25~16:25  
◆親の言い分VS青年の言い分  
(みんなで討論)  
活動中グダグダしてる子どもたち。これでいいの?親も指導員も本音で語ろう。全員参加の大討論会!



■講座 16:40~18:40

講座A「今こそ伝えたい平和の思い」  
講師: 杉村征郎

62年前アメリカの水爆実験により、死の灰を浴びた焼津の第五福竜丸。家の目の前に繋がれた船を毎日見ることに。杉村さんはその時中学2年生。「原爆マグロ」「風評被害」「反米気運」と、事件を終わらせたい一部の有力者がある中で、友人とたった2人で始めた“原水爆反対”の署名。3・11 福島原発事故以後“核兵器をなくそう”の思いを再び強くしています。平和な日本に!!

講座B「どの子ども大切に“学校と地域”~子どもたちにかける思い~」  
講師: 匂坂弘 (掛川市栄川中学校校長)

子どもたちを取り巻く環境は厳しい。学級崩壊、SNS、不登校など。しかし本来学校は、子どもたちが安心して居られ、学びの喜びのあるところ。今の中学生の状況を語りながら、希望ある学校づくりを進めています。

講座C「青少年少女センターの歴史と子ども組織」

講師: 柳沢治信  
(青少年少女センター全国ネットワーク代表)  
神代洋一  
(NPO東京青少年少女センター理事長)

1972年、教育学者の丸木正臣さん、漫画家の手塚治虫さん、「おこりじぞう」の作家、山口勇子さんが呼びかけ、「ひとりぼっちの子どもをなくそう」と設立されたのが青少年少女センターです。子どもが主人公の地域生活と組織を育てようという思いは、その後の子どもの権利条約の成立で、先進性を確かめられました。半世紀の歴史を学び、未来の子ども組織を展望していきたいと思えます。

講座D「うばわないで!子ども時代~第五福竜丸のまちで語り合い・考える」

講師: 齊藤史夫 (子ども白書編集委員・小田原短期大学講師)  
長島楓 (種まきうさぎ)

フクシマに向き合い、学び伝えてきた高校生の朗読グループ「種まきうさぎ」、子どもの権利条約から子どもの幸せを考えてきた研究、対話から子ども時代の今を考えます。

◆夕食交流会 18:45~20:45

2 日目

■分科会 9:00~14:00

分科会1 子どもと遊び

発達の三大原則は、「遊ぶこと」「学ぶこと」「働くこと」です。三つの活動の中で、子どもにとって最もベースとなるのが「遊び」。各地で行われている遊びを楽しく紹介しながら、改めて「子どもにとっての遊び」についておさえ、遊びを取り組む意味や、遊びに関わることを考えあてていきます。  
助言者: 神代洋一 (明星大学教育学部)



分科会2 子どもとの関わりって?

少し前まで子どもだったとはいえ、子どもに関わる青年たちの悩みはつきません。こんな時どうしてる?こんな子にはどうかかわっている?語って糸口を探しましょう。  
助言者: 荒木風見子 (福岡東部子ども劇場・ひまわり団)

分科会3 青年のリアルと活動

学生は授業、バイトに追われ、社会人はワーキングプアや長時間労働が当たり前の社会の荒波に翻弄され、自分の時間を確保するのも難しい!それでも、青少年少女センターの活動にイキイキと参画し、子どもたちとの活動を真剣に、そしてやりがいを持って関われ

ているのはなぜ?学校や職場の実態を紹介しあうとともに、両立させる大変さと、両立させることで見えてくる活動の魅力について一緒に探っていきましょう。

助言者: 中村健二 (大阪青少年少女センター事務局長)



分科会4 キャンプ・学び合いと自治

「自治」ってなんだか難しそう?キャンプの生活づくりや学び合いの中を「自治的に運営」するってどういうことなのかな?子どもたちが考えて自分たちで活動を作っていくために必要なことってなんだろう?みんなで考えてみましょう。

助言者: 柳沢治信 (NPO くりのき)

分科会5 おとなの役割

子ども主体の活動を進める上で、親・大人の役割とは?「環境づくり」、「安心安全の確保」、子どもの自治をふまえた活動への援助を進めるには?大人の仲間作りと出番、思いの継承など、話し合いたいこといっぱいです。助言者: 山田寛 (埼玉青少年少女センター)

◆全体会 14:00~14:45

